

当時を知る人に聞く戦争の記憶

菊川市遺族会の皆さんは、二度と悲惨な戦争が起こらないよう、戦争で大切な家族を亡くした悲しみや戦時中の体験を語り継いできました。今回、遺族会の皆さんや当時を知る市民の皆さんに、改めて当時の体験や記憶を語っていただきました。



菊川市遺族会
赤堀 三千男 さん
(川西)

父

との記憶は、自転車で乗せてもらい、あちこち連れて行ってもらったこと。数少ない思い出です。私が6歳の時に、赤紙を持った人が家に来ました。父は当時35歳でした。過去に兵役に従事して除隊した身でしたので、「自分はもう年だから」と言っていました

が、結局、静岡の陸軍歩兵第一一八連隊へ行くことになりました。

ある日、静岡の父の所へ面会に行きましたが、子どもだった私は騒いでいたので会うことができませんでした。父とはそれが最後でした。父は昭和19年7月18日にマリアナ諸島で亡くなりました。父が亡くなったと聞いて、当時の川上村を上げてお葬式をしてくれました。同じように村でお葬式をした近所の方は、葬式をした後に戻ってきて、「お父さんに世話になった」と家まで報告に来てくれました。「もしかしたら父も戻って

私が6歳の時に、赤紙を持った人が家に来ました



▲写真に写る父孝一さんを指さす三千男さん。数少ない遺品を今も大切に保管しています。

てきてくれるのでは」と思いましたが、父は戻って来ませんでした。母はその後、1人で私たち兄妹を育ててくれました。結婚してから11年しか夫婦で過ごしていません。気の毒だと思えます。村の人たちが助けてくれましたが、食べるものに困らない人を見て、悔しい思いました。戦後は靖国神社や静岡の護国神社へお参りに行きました。サイパン島への慰問に行く機会もあり、私は何度か現地へ向かいましたが、母と都合が合わず、行くことは叶いませんでした。現地の人の話では、グアムは血の海だったと言います。今では観光地になっていますが、洞窟の中に野戦病院が築かれていたり、コンクリートに大きな穴が開いているのを見て、戦地だったことを実感しました。

戦争は二度と起こらないようにしてもらいたい



菊川市遺族会
樽林 努 さん
(古谷)

小

さい頃に、家族みんなで菊川駅まで行って、そこから父が居た三島の陸軍基地に行ったのを覚えています。訓練している父に向って手を振りましたが、父は訓練中なので反応がありませんでした。その後父は、満州へ配属され、昭和18年8月23日にフィリピンへと送られ、昭和20年1月16日に戦死したと聞きました。終戦から50年以上経って、生還した戦友会の方から現地の戦闘の様子を聞くことができました。当時を知る人から聞いた惨状は、50年以上が過ぎててもなお、昨日のことのように生々しいものでした。こうした話を聞き、改めて、戦争は二度と起こらないようにしてもらいたいと思います。



▲父 芳雄さんの遺影と勲章。

遺骨も何もないので、まだ死んだとも思えません



菊川市遺族会
内田 昌義 さん
(牛淵)

私の父は、昭和20年にピルマで戦死しました。家族の元に訃報と一緒に箱が送られてきましたが、遺骨ではなく、切った写真が入っていただけでした。遺骨も何にもないので、まだ死んだとも思えません。終戦の年、私は六郷小学校の4年生でした。当時は学校に兵隊が駐留したので、分散授業と言って、極楽寺で勉強をしていました。4年生の時はほとんど学校へ行けませんでしたが。当時は油が無かったので、茶の実を拾い、絞って油を取ったり、学校の持つていっている山の松の木に傷をつけて、松ヤニを取ったりして油にしていました。学校には「奉安殿」という社があって、そこへ最敬礼してから、教室に向かいました。教室に入ると回れ右をして、御真影にお辞儀をして、教育勅語を読みました。子どもも戦争の教育を受けていたんだと思います。